



スポーツスター GT



G-TECHのフラッグシップモデル Sportster GT。ベースはアバルト 500 なのだが全くの別モノ。エンジン本体も変更され、CPU やインタークーラーの大型化で 224ps までパワーアップ。ミッションは 5 速がハイギア化されノーマルのアバルト 500 よりも高速巡航走行は格段に静か。GT 最大の特長は 10 センチ低くなったチョップドールフ。最高速は 232km/h を誇る。

トリブート・フェラーリ 224



フェラーリの名を冠したアバルト・トリブートフェラーリ。アバルトのラインナップでも走りに振った特別なモデルだ。そのスペシャルなトリブートに G-TECH のコンプリートエンジンを搭載。CPU チューニングなどで 224ps までパワーアップされている。オリジナルモデルが 180ps に対して 40ps 以上アップした加速感に池沢氏の評価も高かった。



池沢早人師氏

ご存じ池沢早人師先生。スーパー GT やカラカップなど、本格的なレースへの出場経験も持ちドライバーとしてのセンスも素晴らしいモノを持ち合わせる。長い漫画家人生から一念発起。『三流レーサー』で小説家としてデビューを果たす。集英社から絶賛発売中。数年前に『早人師』に改名。読み方は「さとし」のまま。

気になるクルマ

池沢早人師 X G-TECH 日本参入をスタートした G-TECH コンプリートモデルを 池沢早人師がインプレ!

文●武井寛史 text by TAKEI Hiroshi 写真●羽田芳明 photos by AMADA Yoshiaki
制作●音速 movies 協力●G-TECH JAPAN http://www.g-techgmbh.jp/

G-TECH はドイツ南西部のシュテッテンに本拠地を置くチューニングメーカーだ。ヨーロッパ地域において、ドイツはルーフ、テックアートといったチューニングメーカーが多く拠点を置くチューニング大国。その中でも特に注目を浴びているのがヘルムート・ギースル氏率いる G-TECH である。ヨーロッパを中心に評価が高い G-TECH が日本に本格参入したのは昨年。近頃、ヨーロッパ系の雑誌などでも見かけるようになった。ちなみにドイツ国内で登録されているフィアット/アバルトの約 30% が何らかの G-TECH パーツを装着しているほどメジャーなメーカーでもある。

その G-TECH が手掛けた 2 台のモデルをあの池沢早人師氏がインプレッションすることになった。ここでは池沢氏が感じたフィリングを余すことなくお届けしよう。

今回、池沢氏がインプレッションしたのは、G-TECH のフラッグシップ「スポーツスター GT」と G-TECH 224 というエンジンシステムが搭載された「トリブート・フェラーリ 224」。

以下、2 台を乗り終えた池沢氏のインプレコメントである。

「スポーツスター GT は見た目でルーフが低いのが解るね! コンバクトだけどスバルタンな雰囲気がとても良い。バケットシートに座ると外観からは想像できなくらいドライビングポジションが低くて、正にスポーツカーといった感じだね。

G-TECH の核となるモデルだけあってエンジンのパワー感が凄いいね。車重も軽いから数字以上にパワーがある感じがするよ。これだけのパワーがあ

あって F だから多少、トルクステアが出るけど、この加速感じが仕方ないな。逆にクルマを操る楽しみがこのクルマにはある。でも街中だとシヨックが硬いかな……。街中で乗り心地を求めるなら少し柔らかくしたほうが良さそうだよ。足は硬いけどハンドリングはとっても良い。思わずコーナーを攻めたくなるよ! スポーツスター GT は、純粹に走りを楽しみたいユーザーにお勧めしたいクルマだね」

——では次はトリブート・フェラーリ 224 のインプレをお願いします。

「アバルトのトリブート・フェラーリは前に乗ったことあるんだけど、スタイリングはオリジナルのままなんだね? でもフェラーリの名前が付いているだけあってノーマルでもスポーツカーっていうオーラが出ているよね。マフラーが変わっていたけど、室内が静かで静寂性が保たれているんだよね。外でフリッピングすると良い音がしていたから意外に静かで感心したよ。

エンジンのレスポンスはノーマルのトリブート・フェラーリとは全く別モノだな。スポーツスター GT と同じエンジンが載っているからトルクがあつて加速感が良い。市街地の乗り心地は、スポーツスター GT よりもやっぱりトリブート・フェラーリの 224 の方が良いな……。それでも走るフィールが違う。チューニングが施されているから、ユーザーが求めるカスタムが出来るということだよな」

今年、G-TECH はスーパー耐久シリーズに参戦する。過酷なレースシーンで益々チューニングパーツの開発が進むことだろう。今後の展開が楽しみなメーカーだ。